

助成金説明会(未来ファンドおうみ)でよくある Q & A

Q1. 法人格を持っていないでも申請できますか？	A1. NPO 法人またはそれに準ずる団体でしたら可能です。(任意団体も可) (※準ずると団体とは、定款、規約、会則等を持ち、組織として意思決定ができるもの)
Q2. 他助成金との複数申請はできますか？	A2. できます。ただし、双方に助成事業のすみ分けを確認してください。
Q3. どの基金に申し込めばいいですか？	A3. 当センターにご相談ください。各基金の助成対象事業と申請事業の整合性は重要です。
Q4. 採択された場合、助成金は、いつもらえますか？	A4. 申請のあった団体のみ当該年度 5 月末に助成金額の 8 割をお支払いします。残りの 2 割は、実績報告の後、確認をしてからのお支払いになります。
Q5. 団体スタッフへの謝金を助成金から払うことはできますか？	A5. できます。ただし、助成対象事業に対してのみです。また、謝金は人件費とは異なります。人件費については、「びわこ市民活動応援基金 B」のみが対象となります。
Q6. 補助率は？	A6. 10割補助です。
Q7. 助成期間はいつからいつまでですか？	A7. 当該年度 4 月 1 日～翌年 3 月 31 日までです。
Q8. 複数基金に応募することはできますか？	A8. できます。ただし同じ事業で複数基金への申請は、訴求性が弱くなります。

未来ファンドおうみ通信

No. 22

2020 年 12 月 1 日発行
淡海ネットワークセンター

2021 年度未来ファンドおうみ助成事業の募集が始まりました！

- ◆応募受付期間：2020 年 11 月 20 日（金）～2021 年 1 月 15 日（金）17 時必着
- ◆詳細：ホームページ (<https://ohmi-net.com/jyosei/bosyu/>) をご覧ください。
- ◆募集案内（募集要項）と申請書の入手方法
ホームページ（上記）よりダウンロードできます。
淡海ネットワークセンター事務所でも受け取れます。

◆説明会（要予約）

大津会場	2020 年 12 月 5 日（土）	10:30 ～ 12:00	淡海ネットワークセンター （ふらっとルーム）
米原会場	12 月 10 日（木）	10:30 ～ 12:00	米原公民館 3A 研修室
守山会場	12 月 12 日（土）	10:00 ～ 11:30	守山市民交流センター 1 階交流室
オンライン	12 月 16 日（水）	14:00 ～ 15:30	ZOOM
オンライン	12 月 19 日（土）	14:00 ～ 15:30	ZOOM

※説明会への参加を希望される方は、

①参加日 ②お名前 ③所属 ④連絡先電話番号 ⑤お住まいの市町 をご記入の上、前日までに、メール (office@ohmi-net.com) またはお電話（077-524-8440）にてお申し込みください。

お問い合わせ 淡海ネットワークセンター(公益財団法人 淡海文化振興財団)

〒520-0801 大津市におの浜 1-1-20(ピアザ淡海2F)
TEL: 077-524-8440、FAX: 077-524-8442
E-mail: office@ohmi-net.com <https://www.ohmi-net.com/>



応募についての相談は、淡海ネットワークセンター事務所ですぐ、受け付けています。期間は 2020 年 11 月 20 日～2021 年 1 月 13 日までの開館日です。必ず電話での予約をお願いします。なお、相談と選考は無関係ですので、ご了承ください。

2020年度 助成団体の活動

げんさん食育NPO基金

特定非営利活動法人滋賀自閉症研究会たんぽぽ

採択事業は、『『食べたい』から育てる自閉症児の『コミュニケーション』』です。

言語での発信が難しく、まとまった行動がとりにくい重度の知的障がいをもつ自閉スペクトラム症障がいの幼児を対象に、子どもたちの好きなおやつを使って「欲しい」という気持ちを表現する方法を教え、さらに伝わった喜びの経験を積み重ねることでコミュニケーションマインドを育てています。またご家族には、全5回の勉強会を開催し、家での困りごとを相談したり、家での関わりに必要な知識を学んだり支援グッズを実際に作ったりしながら交流を深めていただいています。

自閉スペクトラム症障害の人たちとその家族が、自信をもって安心して社会参加できることを願い活動しています。



【ホームページのQRコード】



←PECSを用いたコミュニケーション指導

おやつ作り→
(フルーチェ)
身体介助で道具の扱いができるように



積水化成製品基金

NPO法人環境と農業の融合を考える会鹿深の杜

採択事業は、「地域（里山）環境整備と環境学習の場の提供」です。

農業の担い手の高齢化や農業収益の減少により、耕作放棄地がさらに増加しています。従来の里山の景観や農地の環境は損なわれ、これまで育っていた植物の減少、獣害による作物被害が増えています。

この事業では、鹿深の杜の会員が、地域住民や積水化成製品社員と一緒に、里山の環境整備（草刈り、遊歩道や木道の設置、防腐剤の塗布、間伐、枯れ木の撤去等）を実施しています。健全な里山環境を取り戻すとともに、身近な自然環境である



【ホームページのQRコード】

里山を次世代を担う子どもたちの環境学習の場として提供しています。

これらの活動を通じて、地域交流が深まり、ひいては地域活性化や里山の保全につながることを願い活動しています。



びわ湖源流の木遣い応援もえぎ基金

東近江市あらゆる場面で木を使う推進協議会

採択事業は、「100年の森づくりビジョン 東近江市・あらゆる場面で木を使うプロジェクト」です。

かつては、暮らしや生業の様々な場面で木材が使われてきました。しかし近年は、生活様式や価値観の変化によって地元産の木材は利用されなくなりました。そのため、森林の荒廃がすすみ、森林が本来持っている公益的機能は失われつつあります。

この事業では、東近江市産の木材を活用して日常のあらゆる場面で使用できるような木製品の製作・展示を行っています。また、東近江市産の木材を使用した玩具（木のジャングルジム「くむんだー」や、組み木の要素を含んだ「クミノ」など）による木育イベント「おいてく木育」を実施し、子ども達をはじめ多くの人々が木に慣れ親しみ、森林や自然環境の大切さを学ぶ機会を提供しています。木の良さを広くアピールし、地元産木材の利用促進につながることを目指しています。



【ホームページのQRコード】

